

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	405C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：405C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

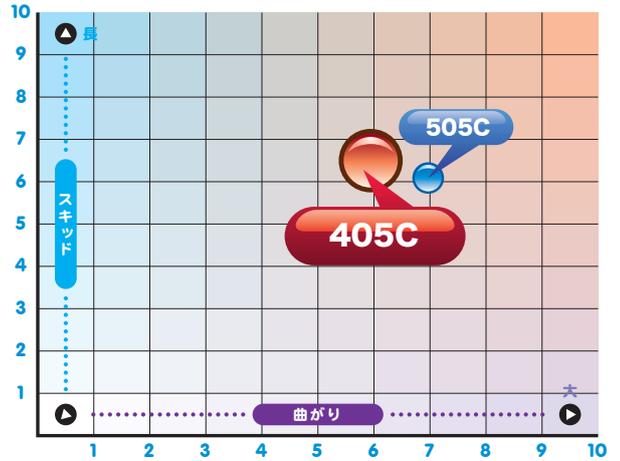
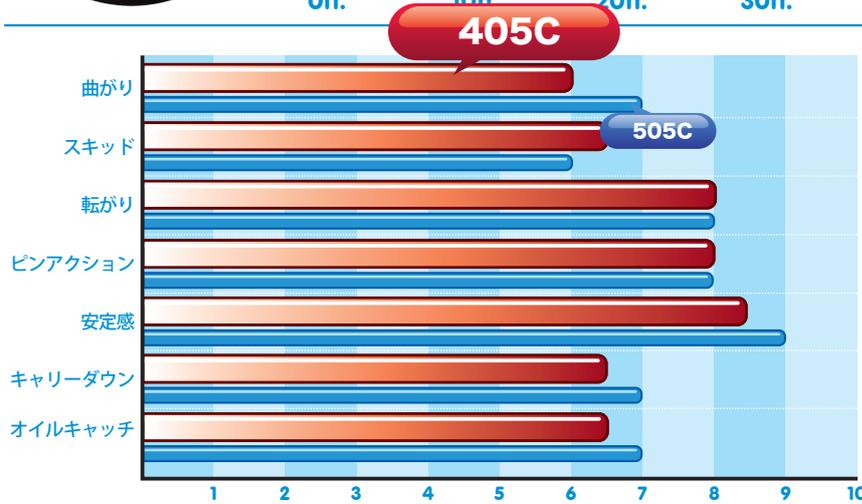
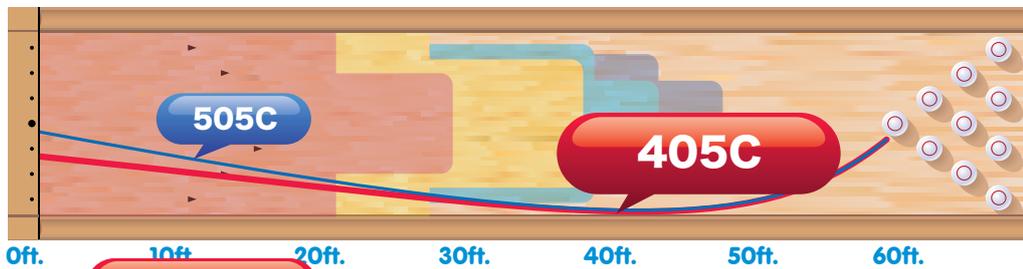
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：505C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

キネティックや505Cのように過去発売されたボールの中でこれほど再販を望む声が多く、愛されたボールはないというぐらい今でもその性能を探している人は多いと思います。皆様ご存知の通りトラック社はすでにシャトルコアから新しいコアへと開発を進めています。しかし日本のボウラーが今尚シャトルコアのボールを求めている現状をABSは真摯に受け止め、トラック社との協議の結果、インターナショナルでの発売のみにそのコアの使用を許されました。

505Cの性能、リアクションイメージをそのまま受け継ぎ、「4」という領域に拘った現在の日本のコンディション事情にベストであるべく日本監修の405Cの発売です。

408C同様日本監修のメリットは拘りつくせること。505Cのイメージをそのまま継承させ、「4」の性能分布にするためにさまざまなテストを繰り返し、妥協とは無縁の製品だからこそ自信をもってこの405Cをお勧めできます。

オールマイティーな存在として位置づけられている505Cの独特なキャッチ感と軸移動。キネティックや408Cにみられる柔らかい切れ方よりもより505Cを走らせたバージョンであることを感じて頂けると幸いです。

最近の傾向として以前よりもキャッチ力がある性能のボールが増えているということは、それだけラインの削られかたも早いということが言えます。もちろんライン変更によるオイルに負けないキャッチを得られる性能も持つべきですが、如何に薄いオイルのときに軸となる性能を持つかどうかでライン取りや纏わるスコアメイクにも影響を及ぼすでしょう。

そんなとき「勝負できるボールを持つべき」だからこそ、この405Cを持たなければなりません。

特記事項

505Cのイメージそのまま「4」のバージョンに仕上げました。
インターナショナルだからできるシャトルコアならではの拘りつくした性能を是非お試しください。